

事業の名称

日立・県北芸術祭フォローアップアートプロジェクト

自治体との連携
学術文化の推進
その他

〔事業責任者〕

(自治体等側)

日立市・市長公室 地域創生推進課 課長 宮内 雅弘

(大学側)

工学部・助教 一ノ瀬 彩

連携先

日立市 市長公室 地域創生推進課

プロジェクト参加者

- | | |
|--|--|
| 氏名 矢内浩文 (メディア通信工学科准教授
担当：作品展示) | 氏名 伊藤翼 (都市システム工学科3年
担当：日立駅展示会場構成・設営) |
| 氏名 住谷秀保 (知能システム工学科 助教
担当：作品展示, 技術支援) | 氏名 鎌田吉紀 (都市システム工学科3年
担当：日立駅・科学館展示・設営) |
| 氏名 梅津信幸 (知能システム工学科講師
担当：作品展示) | 氏名 岸田和樹 (都市システム工学科3年
担当：日立駅展示会場構成・設営) |
| 氏名 川崎俊志 (日立市市長公室地域創生推進課
担当：展示許可申請及び設営協力・広報支
援) | 氏名 草間裕介 (都市システム工学科3年
担当：日立駅・科学館展示・設営) |
| 氏名 島崎礼丈 (日立シビックセンター科学館
担当：展示会場責任者) | 氏名 飯塚柊斗 (都市システム工学科2年
担当：科学館展示・設営) |
| 氏名 高垣勝博 (日立シビックセンター科学館
担当：展示会場・企画調整) | 氏名 中根央喜 (都市システム工学科3年
担当：科学館展示・設営) |
| 氏名 橋本宇宙 (日立シビックセンター科学館
担当：展示会場・企画調整) | 氏名 谷垣陸 (都市システム工学科2年
担当：科学館展示・設営) |
| 氏名 鈴木元之 (日立シビックセンター科学館
担当：展示会場・企画調整) | 氏名 徳元秀平 (都市システム工学科2年
担当：科学館展示・設営) |
| 氏名 柴田有貴 (日立シビックセンター科学館
担当：展示会場・企画調整) | 氏名 根本大 (都市システム工学科2年
担当：科学館展示・設営) |
| 氏名 津田翔平 (アーティスト
担当：作品展示・展示監修) | 氏名 八島総太 (都市システム工学科2年
担当：科学館展示・設営) |
| 氏名 ともつねみゆき (アーティスト・大子町地
域おこし協力隊 担当：作品展示) | 氏名 工藤みちる (都市システム工学科2年
担当：科学館展示・設営) |
| 氏名 中崎透 (アーティスト 担当：作品展示) | 氏名 竹内美玖 (都市システム工学科2年
担当：科学館展示・設営) |
| 氏名 松本美枝子 (アーティスト
担当：作品展示) | 氏名 村上明日香 (都市システム工学科2年
担当：科学館展示・設営) |
| | 氏名 長井咲子 (知能システム工学科4年
担当：科学館展示・設営) |
| | 氏名 佐々木力 (知能システム工学科3年
担当：科学館展示・設営) |

- 氏名 宍戸祐輝（知能システム工学科4年
担当：科学館展示・設営）
- 氏名 櫻井春菜（知能システム工学科2年
担当：科学館展示・設営）
- 氏名 小峯美穂（知能システム工学科2年
担当：科学館展示・設営）
- 氏名 細川顕大（知能システム工学科2年
担当：科学館展示・設営）
- 氏名 廣瀬貴之（コスモス構造計画
担当：科学館・日立駅展示構造アドバイザー）

プロジェクトの実施概要

①プロジェクトの目的

これまで、本学・茨城県北芸術祭連携プロジェクトに採択され、2015年度より日立市と連携している。本学工学部の研究成果を活用し、景観を主題としたシティプロモーションのためのアートプロジェクト「日立駅海の旅行舎」- Hitachi Sea-Side Travel Station Project - を日立駅で実施してきた。今年度は、これまでの展示手法の蓄積と人的ネットワークを活かし、日立駅周辺の魅力的な公共空間の演出手法を開発・提案する。さらに、継続的な日立駅周辺の活性化に向けて日立市及び関係団体と連携を強化し、産・官・学・市民によるクリエイティブな活動を促進するしくみを検討していく。こうした取組みを通して、次回開催予定の県北芸術祭における運営・作品制作に関わる人材の育成と人的ネットワークづくりの機会をつくる。

②連携の方法及び具体的な活動計画

《自治体等の役割》

- ・平成28年度に開催された茨城県北芸術祭により、地域において高まった機運を持続させるとともに、次回開催予定の県北芸術祭における運営に関わる人材の育成と人のネットワークづくりの機会をつくる。
- ・企画運営については、県北芸術祭の機運を持続するという視点から、市民や関係団体の代表者等による実行委員会を構成し、企画・運営をす

る。さらに、関連する企画・運営を支援する。
《大学等の役割》

- ・県北芸術祭の機運を持続するという視点から、2015年度より取り組んでいる本学工学部の研究成果を活用したアート作品の制作及び日立駅周辺における公共空間の演出手法の開発・提案を継続して行う。
- ・日立駅周辺施設における展示企画への参画及び助言を行う。

③期待される成果

- ・平成28年度に開催された県北芸術祭により地域において高まった機運の持続と発展
- ・日立駅周辺を活用した市街地の活性化
- ・本学、日立市、関連機関との連携強化
- ・地域の文化芸術振興に取り組む市民、研究者、デザイナーやアーティストとの連携強化
- ・公共施設を活用した地域プロモーションの強化
- ・本学工学部の研究成果を活用した公共空間の演出手法の開発

プロジェクトの実施成果

①活動実績

- ・日立市との企画調整会議の実施（全2回）
- ・科学館との企画調整会議の実施（全2回）
- ・科学館にてサイエンスアート作品展開催（11/18～1/8）【日立市事業】
- ・科学館にて「ペットボトルイルミネーション」展示開催（12/16～1/8）【日立市事業】
- ・日立駅自由通路での作品展「ひたちの海サイエンスアート」展示開催（1/13～2/4）
- ・SNS開設【日立市事業】

②プロジェクトの達成状況

- ・日立市の事業として実施した科学館でのサイエンスアートでは、本学工学部の教員が、各々の専門・研究分野を活かし「観る人が体感したり、参加できるアート」をテーマとしたアート作品の展示を行った。今までとは違った科学館の展示として、多くの来場者の関心を誘った。



【影のアート：矢内准教授】

- ・作品の制作を通じて、教員の研究の深化やスキルアップが図られたとともに、民間事業者の参画など、新たな人材の発掘・育成の機会となった。



【フォトモザイクミラー：梅津講師】



【ボディマップ：住谷助教】

- ・また日立市の同事業の中で、知能システム工学科・都市システム工学科2～4年生有志を中心に、サイエンスシアター動画コンテンツ展示やペットボトルを用いたライトアートインスタレーションの作品展示を科学館において行った。点灯式には多くの市民が来訪し、新聞にも取り

上げられた。学生が主体となって作品制作を行うことで、人材育成の機会となった。また、外部講師を招聘した作品講評会や講演会の開催を実施することで、芸術的な作品評価や最先端の事例に触れることができ、教育的効果を高められた。

- ・日立駅自由通路にて日立市の久慈浜海岸を舞台に、海・日立・サイエンスを主題として制作された作品展示「ひたちの海サイエンス～アート・アートビーチくじはま～」を実施した。
- ・県北芸術祭に向けて運営・作品制作に関わる人材の育成と人的ネットワークづくりの機会と公共空間の演出手法の開発・提案を継続的に行うことができた。
 - 1) これまでの日立駅における展示空間の領域をさらに広げた。改札口の自由通路から展望スペースにかけて連続的に展示を行うことで、「海のギャラリー」としての機能の可能性を提示することができた。SNS上では、「一見の価値あり」「日立駅をギャラリーとして使うのは魅力的」といった多数の意見とともに展示が紹介されていることが確認できた。
 - 2) 多様な作品形態（平面作品・立体作品・照明吊り下げ・ストリートファニチャー、ターポリン吊り下げ、金属性のカーテンへの装飾など）を展示することで、公共空間の演出手法のノウハウを蓄積することができた。
 - 3) 展示会場の構成やストリートファニチャーのデザイン、流木を使った立体造形制作に学生が主体的に関わることで、展示運営や作品制作に関わる人材の育成の機会となった。
- ・サイエンスアートの展示及びペットボトルイルミネーションが取り上げられ、制作に関わった学生のコメントなどが掲載された。（12月21日茨城新聞）また、市内ケーブルテレビのJWAYやFMひたちにも取り上げられ、本学と日立市が連携した本事業に関して、市民に周知されることになった。



る情報共有を日立市関係部署と綿密にはかりつつ、来年度もタイアップ企画を計画している。

- また、日立市が行ったサイエンスアートの展示では、展示場所が分かりにくかったというものから、入場料金の取り方、広報などの誘導方法等、来場者が鑑賞しやすい環境のつくり方が課題として挙げられた。また、作品のアート性の確保や展示の演出方法、ワークショップの実施方法など、展示全体の質の向上が必要不可欠であることから、今後も引き続き、日立市と大学が連携しながら効果的な事業の実施について研究・調査していく。



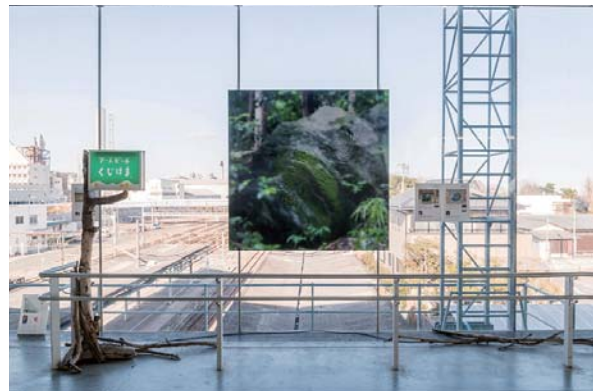
ペットボトルイルミネーションチラシ



日立駅展望スペース：アートベンチ



日立の海のサイエンスアートチラシ



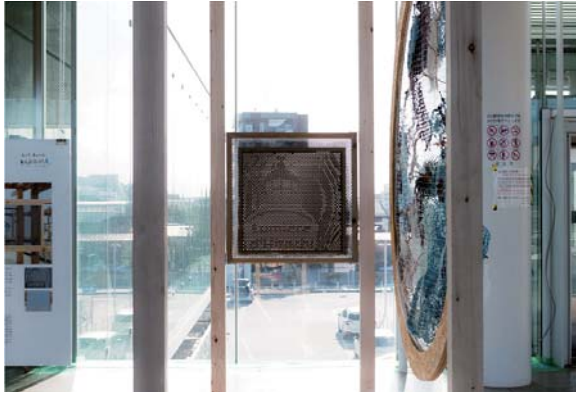
改札前自由通路：化石の谷のアノマロカリス

③今後の計画と課題

- 日立駅周辺の公共施設や日立市内の海を活用した地域プロモーション及び県北芸術祭の機運を持続するという視点から、市民や関係団体との連携を強化する。
- 日立市が実施する事業の年間計画や企画に関する



自由通路：遠くの海・近くの海



自由通路：モワレインフォアート - 日立の海光
- La Lumiere d merd'Hitachi